



保健のページ



インフルエンザに関してお伝えします。

今年度はインフルエンザの流行が早く、すでに流行している地域もあるようです。

インフルエンザワクチンは、園児の年齢ですと2種類から選ぶことができます。

① 不活化インフルエンザワクチン(注射)

⇒対象年齢は生後6か月～

12歳以下の場合は2回接種が推奨されています。

② 生インフルエンザワクチン(点鼻)

⇒対象年齢は2歳以上19歳未満

鼻腔内に噴霧し、接種は1回です。

どちらもインフルエンザを予防するワクチンですが、点鼻で接種するワクチンは、インフルエンザの感染経路である鼻や咽頭で免疫がつくられるため、高い発症予防効果があると言われています。しかしながら、接種が勧められない方もいます。例えば、喘息の治療をしている方、慢性疾患のある方などです。

どちらにするか迷う方は、かかりつけの病院へご相談ください。

インフルエンザに限らず、ワクチン接種をした場合は園まで連絡帳などでお知らせください。

●発症してからすぐは検査に反応しない・・・？

インフルエンザの迅速抗原検査は、体内のウイルス量が一定以上でないと正確に陽性を検出できません。一般的には、発熱直後(発症から半日未満)ではウイルス量が少なく、最大40%ほど偽陰性となることもあります。

一方で、抗ウイルス薬(タミフルなど)は、発症後48時間以内に投与することで効果があるとされていますので、受診のタイミングについては発症後1日～2日以内がオススメとなります。

ただし、呼吸が苦しそうであったり、意識状態の悪化があった場合には、肺炎や気管支炎、インフルエンザ脳症を起こしている可能性もありますので、早めに通院をしてください。

インフルエンザの出席停止期間は、

「発症後5日を経過し、かつ解熱後3日を経過するまで」と定められています。

※発症日は0日目と数えます。また、解熱した日は解熱0日目と数えます。

手洗い・うがいもしっかり行い、これからの季節も元気に過ごしていきましょう！

看護師より

